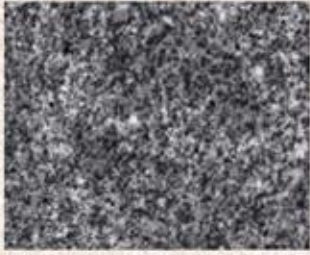
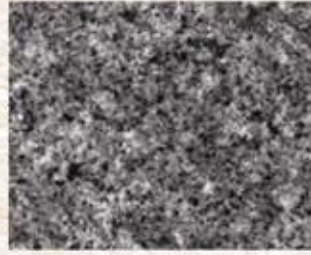


国産石材サンプル



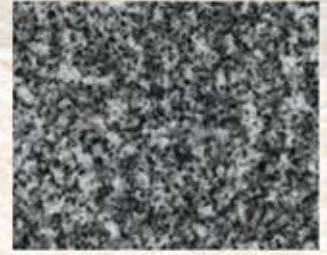
庵治石細目極上 (香川県)



庵治石細目 (香川県)



庵治石中目 (香川県)



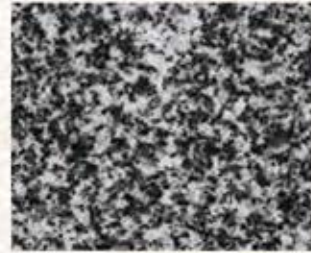
天山石 (佐賀県)



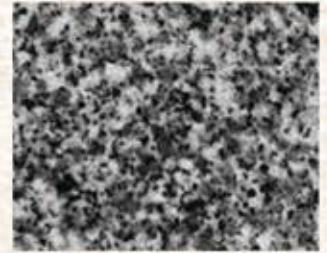
大島石極上 (愛媛県)



大島石特級 (愛媛県)



大島石一級 (愛媛県)



大山石 (愛媛県)



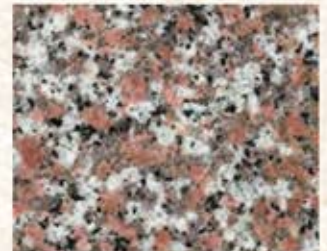
青木石 (香川県)



真壁石小目 (茨城県)



やさともかげ (茨城県)



万成石 (岡山県)

外国石材サンプル



G1704



AG98



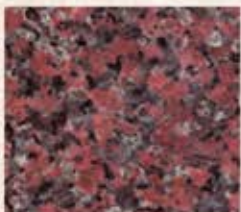
G688



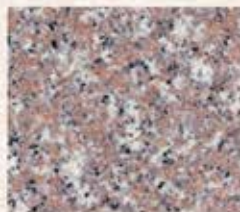
アーバングレー



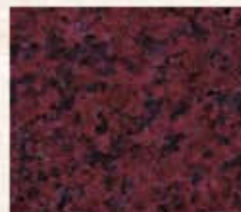
G654



G562



G663



ニューインペリアル



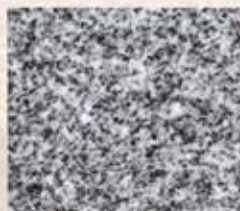
万年青



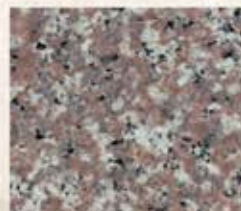
インド黒



陰城



栄州



G635



G623



G603

庵治石 [四国・香川県産]

世界に誇る御影の最高峰



庵治町の風景

最大の特徴は「斑」

きめ細かな地肌であるがゆえに風化に強く、磨けば磨くほど艶を増す“庵治石”。その最大の特徴は、「斑が浮く」という現象です。他に類をみない、この特質性と希少性から、世界で最も高価な石として評価されています。

“庵治石”の石肌は磨くほどに濃淡が浮き出て、平坦なはずの石の表面に奥行きを感じさせる二重のかすり模様を見せてくれます。その模様は、高い山々にかすみたなびく雲、また屋島から舞い落ちる桜の花びらにもたとえられ縁起物としても珍重されてきました。



首相官邸の石庭



採掘現場



造形の様子

庵治町・牟礼町にまたがる
“八栗五剣山山麓”



石の里、千年の歴史

“庵治石”の歴史は非常に古く、平安時代後期から使われ始め、安土・桃山時代には京都男山の石清水八幡宮再興、江戸時代初期には高松城築城や大阪城大改築にも使われたという史実があります。

“庵治石”が全国的に知られるようになったのは、大正時代から昭和の戦前にかけての時期です。採石や加工の知恵と技術、技能は長い歴史のなかで伝統の技として磨かれ、その匠の技は、「天下の銘石・庵治石」とともに「庵治産地」の名を全国に知らしめてきました。

現在に至っても、“庵治石”は首相官邸の石庭や、東京オリンピックの聖火台など、数多くのモニュメント、建築物として、全国各所にその姿を刻み続けています。

産地と石材物性データ

香川県高松市、源平合戦で知られる屋島の東側対岸には、峰が剣の尖のようにそびえ立つ五剣山という山があります。この山のふもと庵治町と牟礼町の町境から採掘される石が“庵治石”です。

正式名称は「黒雲母細粒花崗閃緑岩」といい、主成分は石英と長石。微細な黒雲母と角閃石を含み、それぞれの成分の結晶がとても小さいのが特徴で、水晶と同じ硬度7度の硬さといわれています。

庵治石の見掛け比重 吸水率・圧縮強度

■見掛け比重	2.65 t/m ³
■吸水率	0.15 %
■圧縮強度	155.00 N/mm ²

大島石 [四国・愛媛県産]

本流・四国の銘石



豊かな「大島」の風景

石のプロも認めるバランスの良さ

念仏山と呼ばれる山の周辺で採掘される“大島石”。その最大の特徴は全ての点でバランスに優れた、偏りの無い「中庸」のごとき存在感です。色は白すぎず黒すぎず、石目は細かすぎず粗すぎず、決して色褪せしない石肌は、むしろ時間が経つにつれその青味が強くなり一層の深みを示し、100年品質にふさわしい青磁のような美しさを感じさせます。

※中庸…偏らず、常に変わることなく、調和がとれていること。



採掘現場



絶大な信用と支持

日本でも最大級の採石産地である“大島石”の採石の歴史は古く、江戸時代から堅牢で美しい石として知られていましたが、昭和になり採石技術の進歩によって採石量が増えるにつれ一躍脚光を浴び、関西・中国・四国地方でお墓といえば“大島石”と言われるほど絶大な信用と支持を得るとともに、今日では全国的に知られる石となっています。

産地と石材物性データ

本州と四国を結ぶ3本の連絡道路の最も西に位置し、尾道～今治間の美しい島々を結ぶ通称「しまなみ海道」。瀬戸内の島々の情緒を味わうことが出来るサイクリングロードも整備されたルート最終の島が「大島」です。

古くは村上水軍の拠点としても有名で周辺の島々では柑橘類が豊富に生産され、とによりには「伯方の塩」で有名な「伯方島」があります。

大島石の見掛け比重 吸水率・圧縮強度

- 見掛け比重……………2.649 t/m³
- 吸水率……………0.111 %
- 圧縮強度……………117.99 N/mm²

万成石 [中国・岡山県産]

優美さと雄大さをあわせ持つ銘石



淡く優しい桜色の風合いは、時を経ても変わらない。

永く愛され続ける理由

日本で最も愛される花「さくら」の雰囲気を持つ“万成石”。通称「さくら御影」と呼ばれ、淡紅色の華やいだ風合いは、外国産では感じることでない本物の品格と高級感を醸し出しています。

また、“万成石”はかわいらしい雰囲気的一面を持ちながら、石質は非常に堅固で吸水率も低く、花と実の両方を持ち合わせた日本の銘石としてブランド化されています。



桃太郎大通りー石碑



採掘現場



桃太郎像(岡山駅前)



岡山県岡山市
“矢坂”

万成石の産地

永く愛される風合い

優美な石目の“万成石”は、芸能人・歴代首相の墓石や世界的彫刻家たちの作品、歴史上の人物・偉人の像の台座、古くから親しまれる建築の建材としてなど、様々な場所で使われております。

永い時を経ても変わらないその美しい風合いから、多くの著名人・芸術家などが愛する石材として知られています。



産地と石材物性データ

岡山県岡山市(矢坂)で採掘される“万成石”は国内有数の墓石材です。正式には「角閃石黒雲母花崗岩」と呼ばれ、その結晶質は極めて堅固で、美しい淡紅色の表面は艶のりの良さが特徴です。

岡山市の市街地に近い“万成石”の丁場は、JR岡山駅や岡山空港からのアクセスも非常に便利で、石材業者のみならず芸術家や一般ユーザーなどの見学希望も多く、にぎわいを見せています。

万成石の見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- 見掛け比重……………2.62 t/m³
- 吸水率……………0.17%
- 圧縮強度……………133.72 N/mm²

天山石 [九州・佐賀県産]

広く愛される銘石



唐津市七山 日本の滝百選「観音の滝」

石のプロも認めるその品質

その魅力は、国産材の中でもNo.1～No.2を争う吸水率の低さと抜群の硬度からくる艶持ちの良さです。少し紫がかかった濃い青味が特長の高級青御影石として大変人気があります。

他の有名国産材と比較しても透明度が高く、青深いその石目は、降雨後や歳月を経ても変色がほとんどなく、日本の風土に適しており、墓石材として理想的です。中でも、本家の採掘元である『天山石材』ブランドは、石屋さんの間では有名です。



佐賀県 唐津市
七山地区“天山”

天山石の産地



採掘現場



愛される理由

従来は主に、九州方面で長く使われていましたが、その堅牢度や艶持ち、色合いの良さから、近年は中国、四国方面や関西圏を中心に人気に火がつき、今では中部方面や関東圏まで幅広く使われるようになってきました。地方の銘石から全国区の銘石になった素材です。



産地と石材物性データ

「唐津くんち」や「呼子のいか」、「虹の松原」で有名な佐賀県唐津市（七山地区）で採掘される国内トップランクの墓石材です。

昭和40年代から採掘され、現在単独の採掘場としては販売量日本一と言っても過言ではないほどの墓石用御影石です。

天山石の見掛け比重
吸水率・圧縮強度

- 見掛け比重……………2.69 t/m³
- 吸水率……………0.09%
- 圧縮強度……………194.27 N/mm²

真壁小目 [関東・茨城県産]

硬質で堅牢な品質の常陸の銘石



加波山の風景

関東、北陸で建墓数No.1の信頼と実績

日本の石材の三大産地といわれる庵治（香川県）・岡崎（愛知県）・真壁（茨城県）の中でも、“真壁石”はその飽きのこない表情、変色・キズが出にくい品質、そしてなによりも豊富な産出量に支えられた品質の安定性において、関東や北陸で多くの石材店・御施主様に支持され続けています。その中でも粒子の細かい「小目」といわれるものは、石英の含有量が多く、堅牢で経年変化にも強いといわれています。



採掘現場



つくばセンタービル



迎賓館(赤坂離宮)

遙かなる歴史

桜川市真壁町や大和地区一帯では、遠く石器時代の遺跡が数多く発見されており、石斧、石刀、石棺等にすでにその利用を見ることができます。その後、鎌倉初期から室町・戦国期にかけての古碑、五輪塔、仏石なども数多く残されているこの時期がこの地の石材業の始まりと伝えられています。

明治以降、その安定した品質から用途はさらに広がり、迎賓館（赤坂離宮）をはじめ日本銀行、三越本店などの有名な建築物にも使われました。

産地と石材物性データ

茨城県西部に位置する常陸三山（関東の名山 筑波山、加波山、足尾山）、そのふもとにある桜川市真壁町や大和地区（旧大和村）の一帯に眠る硬質で堅牢な岩石。それが“真壁石”です。

石英・長石・黒雲母からなる花崗岩で、およそ60万年前にできたといわれ、明治期までは「こみかげ石」「常陸小御影石」と呼ばれていました。

真壁小目の見掛け比重 吸水率・圧縮強度

■見掛け比重	2.638 t/m ³
■吸水率	0.233 %
■圧縮強度	120.00 N/mm ²

やさとみかげ^[関東・茨城県産]



信仰の山から生まれる銘石



加波山の風景

安心品質と親切価格の融合

茨城県の筑波山地の加波山（かばさん）で採掘される“やさとみかげ”。最大のセールスポイントは安定した供給体制により実現した親切価格と安心品質の融合。石肌は濃い青味を帯び、適度な硬度で加工に適し、古くから石塔をはじめ、寺社建築やモニュメントと幅広く使用されてきました。また光沢のある表面は風雪の劣化にも強く、安定して大材が採れるなど、“やさとみかげ”は厳しい季節の変化にも耐える良質な墓石材です。



採掘現場



彫刻・モニュメント



信仰の歴史

筑波山を最高峰とする筑波連峰。その中、常陸三山の一つ加波山は天狗伝説の残る霊山。山全体が山岳信仰の対象として有名で、修業の山でもあります。山中には多くの神社群や巨石があり神聖な力を感じる場所です。そんな場所で生まれる“やさとみかげ”は供養に適した銘石といえるのではないのでしょうか。



産地と石材物性データ

「日本の三大石材産地」の一つ、茨城県西部、真壁地区。常陸三山の一つ加波山には日本有数の採石場が点在し、石材産地“真壁”で生産される「真壁石燈籠」は国の伝統工芸品にも指定されるほど、石材業の盛んな町です。

常陸三山は登山ルートとしても人気があり、近くの足尾山はパラグライダーやハングライダーのメッカとしても有名です。

やさとみかげの見掛け比重 吸水率・圧縮強度

- 見掛け比重……………2.659 t/m³
- 吸水率……………0.2%
- 圧縮強度……………161.32 N/mm²